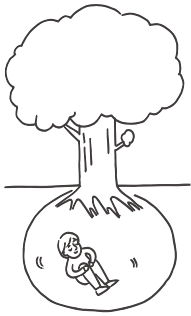


インタビュー | 黒岩 絵里子 (No.120)

好き：美術（絵画、映像作品、インスタレーション）

Q.自分のベースになったと思う原体験は？

自分で好んで描き始めた記憶があるのは、小学校1年生とか2年生とかかな。お父さんもお姉ちゃんもすごく上手。当たり前に関自分も絵がうまいだろうと勘違いしていて…でもコンクールの賞とか全然取れなくて…それが悔しかったっていう記憶が強い…。



高校の美術の先生が画家で、すごく自由な人だったんだよね。自分の好きなものを描きなさいって人で。何かを描写するんじゃなくて、想像の中にあるものを描いたとき、それがすごい褒められて、オリジナルのものを持っているはずだから頑張って描きなさいって言われて、すごい描いたかな。その人に美術を教わって、ちょっと変わった。

20代前半は、バックパッカーで東南アジアを回りながら、いろんなものを見たり、いろんな世界に触れたりして、自分っていうものを改めて考えて、自分とちゃんと向き合っていきたいと思ったときに、たまたま姉がCAI（CAI現代芸術研究所/札幌）のアーティストの冊子をくれて、作家になりたいって気持ちもあったし、アートの勉強をしようって。

Q.どこで、誰と出会う？

以前、S-AIR（札幌のアーティストインレジデンス）で来ていたタイの友達が、日本に1年間滞在することになって、何年かぶりに会ったんだよね。

そこでチェンマイの話聞いたの。「チェンマイ本当にすごい場所だから」って話をたくさんしてくれて。

「そんなところがあるの!？」って、ビックリして。

そこからチェンマイについて調べてたんだけど、もう行かないとわかんないわーって思って、1ヶ月後くらいにはチェンマイ行ってた！

Q.何を見た？

めっちゃ札幌みたいで驚いたの。

急いでない感じとか、似てるんだよね。街の広さとかも似てるし。

でも、タイって軍事政権で、表現規制がめっちゃ厳しくて、その中で芸術活動をみんなしているわけなんだけど、自然とすごいポリティカルな作品にはなる。真剣にそういう社会のことで向きあわざるを得ないんだろうけど。

自分たちに何が出来るのかっていうのを深く考えていて、私の友達のアーティストグループは、ユーモアを持って表現していくことこそが意味があるって感じで頑張っていた。

Q.どう感じた？

本当ビックリして。どうにかチェンマイ、こんなすげーんだぞっていうか、アジアの芸術っていうのが、アツいよ、みんな一みたいなことを広めたいと思った。

Q.そのあとのストーリー

チェンマイのアーティストのイベントがあったら、足運ぶようにして。英語はできないけどコミュニケーション取るようにしたりとか、ギャラリー行ったりとかして、こうなんとなく今思うと種をまいてたんだと思うんだよね。

なんかやりたいなって思ったときに、Think School（札幌駅前通まちづくり株式会社主催のアートマネジメント講座）の案内がポーンとFBに出てきて、これだ!って思ってすぐ申し込んだよね。

